

各種イベント・シンポジウムの報告

自律移動支援プロジェクト

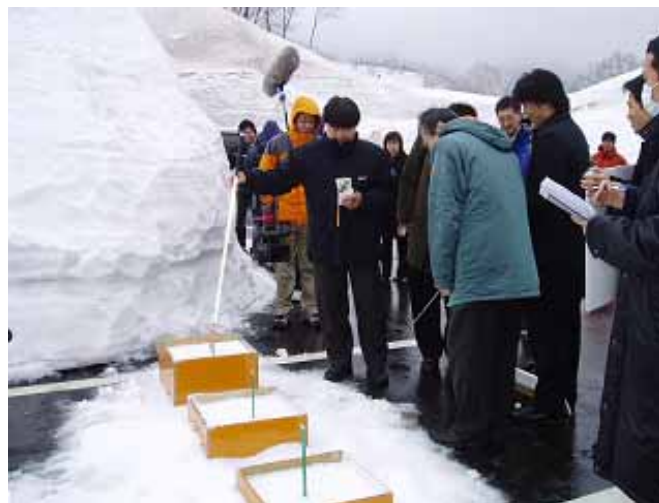
各種イベント・シンポジウムの報告

- ・ゆきナビあおもりプロジェクトデモンストレーション
- ・愛知万博瀬戸会場 コンテンツ確認実験開始セレモニー
- ・愛知万博瀬戸会場 コンテンツ確認実験
- ・小泉内閣総理大臣 愛知万博瀬戸会場での実証実験視察
- ・愛知万博瀬戸会場 一般モニターによる実証実験
- ・神戸本格実証実験開始式
- ・青森 第2回ユビキタス・フェア2005
- ・神戸 モニターによるコンテンツ確認調査
- ・名古屋 ITS フェスティバル
- ・チャレンジド・ジャパン・フォーラム2005国際会議inHYOGO/KOBE
- ・神戸 一般モニターによる実証実験(第1期)
- ・東京ユビキタス計画・上野まちナビ実験オープニングセレモニー
- ・東京ユビキタス計画・上野まちナビ実験
- ・近畿技術事務所での体験ブース設置
- ・神戸 一般モニターによる実証実験(第2期)
- ・TRONSHOW2006

ゆきナビあおもりプロジェクトデモンストレーション

■ 平成17年4月11日(月)

機器の性能確認の公開の状況(青森市八甲田酸ヶ湯温泉)



坂村委員長による酸ヶ湯実証試験指導の様子



UCと白杖を使用した積雪影響試験の様子

ゆきナビあおもリプロジェクトデモンストレーション

■平成17年4月11日(月)

自律移動支援デモンストレーション(青森市国道4号線柳町通り交差点)



坂村委員長によるUCの説明



ICタグから情報を取得



坂村委員長によるシステムの説明



デモンストレーションの様子

愛知万博瀬戸会場 コンテンツ確認実験開始セレモニー

■ 平成17年4月13日(水)

・コンテンツ確認実験開始セレモニー

・4月13日(水)～5月13日(金) コンテンツ確認実験



開始式の様子



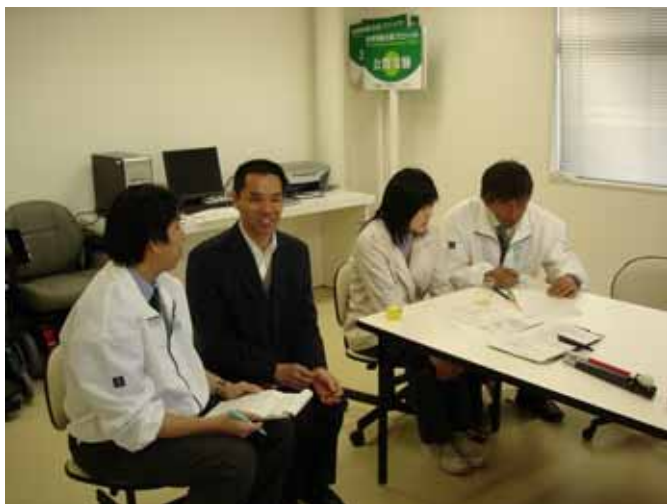
取材状況



システムを体験する長谷川委員

愛知万博瀬戸会場 コンテンツ確認実験

■ 平成4月13日(水)～5月13日(金)



ヒアリングの様子



無線マーカ



実空間での確認



ユビキタストイレ



トイレでの確認

瀬戸で視覚障害者ら実験

自律移動支援
プロジェクト

“携帯ナビ”使い勝手は？ 会場の通信機器から案内情報

携帯端末に受けた情報で障害者
持つ人たちが道案内などを受ける
「自律移動支援プロジェクト」の
実証実験が13日、瀬戸会場で行わ
れた。国土交通省などが進めるプ
ロジェクトで、高齢者や障害者の
社会参画に威力を発揮すると期待
されている。6月には同会場で事
前に予約した人に貸し出して実験
を続けることにしている。

実験にはプロジェクト推
進委員長の坂村健・東大
大学院教授や、同プロジェク
ト委員で日本点字図書館評
議員の長谷川典夫さん(70)
(東京都練馬区)を含む4
人の視覚障害者らが参加。
瀬戸会場内には約1000
か所に道案内などの情報を
発信する「ICタグ付き視
覚障害者誘導用ブロック」
や「無線マーカー」などの
通信機器が設置されてお
り、長谷川さんらは先端に
読み取り装置が付いたつえ
を持って歩き回った。

ICタグを使った自律移動支援プロ
ジェクトの実験で機器がついたつえ
を頼りに階段を上る長谷川さん(右)

長谷川さんらが通信機器
の近くを通ると、携帯端末
が「5分先で右に曲がら
ず」「階段があります」な
どの情報をキャッチし、音
声情報で伝達。ほぼ正確に
歩けたものの、長谷川さん
は「一度に入ると情報が多
すぎる」「階段の段数を教
えて欲しい」などと注文し、
早速、改良された。

これとは別に、国土交通省
は同様のシステムを使っ
て、長久手会場に周辺パビ
リオンなどの情報を携帯端末で
入手できる無線マーカー
や、ICタグを約200
0個を設置する予定。英語
や中国語でも対応可能で、
音声とともにディスプレイ
に文字情報も送り、6月に
貸し出すことにしている。
同委員会では、システム
の10年後の実用化を目指し
ており、坂村教授は「万博
会場は外国人も多く、実験
に最適。きょう貴重な意見
を聞いたので、6月までに
改良を加えていきたい」と
話していた。

平成17年4月14日(木)
毎日新聞 6面

平成17年4月14日(木)
日本経済新聞 43面

障害者の移動 自由に

ITを使った支援
瀬戸会場で実験

障害者が街を自由に歩
けるようIT技術(情報
技術)を生かす試みが、
愛・地球博(愛知万博)
瀬戸会場で始まった。ま
だモニター調査中だが、
実験に入る。



システムを使ったナビゲーションをする坂村健教授(左)と愛知
万博瀬戸会場、山田大輔(右)



瀬戸会場での実験では
歩けるシステム実験(関係者)

ICタグで自律支援実験

約10枚のICタグを会場
内に埋め込み、エレベ
ーターやトイレなどで使い
勝手な案内。参加者ら
は「階段を上る前に何段
あるのかわからない」など
と意見が出て、その場で
システムを改良した。

視覚障害者が参加

愛・地球博
2005 2005



動支援「プロジェクト」の
一環。いつでも、どこで
も、誰にでもコンピュータ
ーを利用できる「ユニバ
サル社会」を構築する坂
村健・東大教授らが開
発した。会場内には、弱
い電波を発信するICタ
グ入り床ブロックや太
陽電池式の無線マーカー
(発信器)などを約10
00カ所に設置。白いつ

えはほとんどセサード
受信すれば、現在位置や
周辺の道案内などが音声
で通知される仕組みだ。
【山田大輔】

小泉内閣総理大臣 愛知万博瀬戸会場での実証実験視察

■ 平成17年6月6日(月)

・小泉内閣総理大臣が瀬戸会場での実証実験を視察



坂村委員長より説明を受ける小泉内閣総理大臣



小泉首相が視察

国土交通省が取り組んでいる「自律移動支援プロジェクト」の一般モニターによる実

愛・地球博でモニター開始

証実験が、開催中の愛・地球博瀬戸会場で始まったが、実証実験に先立って小泉首相が視察し、携帯通信端末(ユビキタス・コミュニケーション)による情報提供、誘導用プロッ

クによる場所情報の提供、多くの場合、その実現にあたっては言語による情報提供、視覚障害者に対する経路案内・障害情報、車いす利用者に対する情報提供・現在地案内など実証実験の構築を目指している。

自律移動支援プロジェクト

の内容の説明を受けた。
「自律移動支援プロジェクト」は、誰もが安心して快適に移動できる環境を目指すもの。ガイドや目的地へのナビゲーションなど「場所が話しかけてくる」環境を、場所か

ら読み出した情報より体験してもらおう。今月7日から19日は視覚障害者や車椅子を使用する等障害を持っている人を対象に、7月25日から8月7日は視覚障害者や車椅子を使用する等障害を持っていない人をおよび福祉団体等に從事している人を対象に実施、8月26日から9月9日はすべての人を対象に実施する。なお、モニター参加者(要事前登録)は万博入場料が無料となる。

愛・地球博での実証実験モニターは、瀬戸会場内に設置されたコースを回ってもらい、ガイドや目的地へのナビゲーションなど「場所が話しかけてくる」環境を、場所か

愛知万博瀬戸会場 一般モニターによる実証実験

■ 平成17年6月7日(火)～平成17年9月9日(金)のうち42日間



白杖体験コースの状況



車いす体験コースの状況

愛・地球博（愛知万博）瀬戸会場では、目の不自由な人、目撃す「自律移動支援プロジェクト」の一つ。障害者たが周りの建物や地形の情報を音声で知ることができるとして体験することができ、一般の人にもモニターとして体験することができ、システムの実験が行われている。国土交通省が実用化を、きる実験に目撃しして参加した。（坪井 千幸）

路面のI-C道案内

「正面は五十段の上り階段です。ゴンドラの方へです」。路上の黄色い誘導ブロックに白つえをかざすと、手のひらサイズの携帯端末から音声が流れる。

ブロックに埋め込まれたI-C（集積回路）タグに記録された位置にかんする情報を、約1・3秒のつぎの先端のセンサーで読み取る。読み取った情報は携帯端末に送られ、その情報を音声で利用者に伝える。

歩いているのか分からなくなると知ることができなくなる。

「左側、約五秒にトイレです」。またすぐ右側、トイレの中でも、思いのほか、目が見える時は歩く、エレベーターが両者を困らせる。このシナリオや階段の位置が、あります。などの音声を、トイレなどで、周囲の状況をきき、ペーパーや洗浄ボタンの



車いす利用者用の情報端末には、バリアフリーで移動できる道順が矢印で表示される



白I-Cと情報端末を手に会場内を歩く坪井記者。瀬戸会場内

障害者向けの移動支援実験 瀬戸会場で体験

位置など、かきいところ、手が届く情報を音で教えてくれる。車いす利用者が会場のスロープの位置などを知ることができ、システムの実験も行われている。視覚障害者向けのシステムとほとんど同じ仕組み。車いすの下に設置したセンサーで、路面などに埋め込まれたI-Cタグから情報を取り取る。モニターの対象は、障害者が中心だが、日程によっては、一般の人にも参加できる。事前に申し込みが必要で、登録された参加者は、本人と介助者一人の万博入場料が無料となる。申し込みは同プロジェクトのホームページ（<http://www.jitishu-project.jp/>）

愛知万博の自律移動支援システム

体験者が高く評価

愛地球博（愛知万博）の会場で実証実験が行われた視覚障害者と車椅子利用者を道案内する自律移動支援システムを体験した視覚障害者の3分の2、車椅子利用者の半数が「整備されれば現在より外出の頻度が増える」と評価したとのアンケート

ト結果を国土交通省が4日、公表した。同省は有効性が確認できたとして、システム開発を急ぐ。実験は6月から9月の計39日間、瀬戸会場内で行われ、計305人が体験した。会場全域に電波を発信する点字ブロックや太陽電池式の無線マ

カー（発信器）などを設置。視覚障害者のつえに組み込んだセンサーにより、現在の位置や道案内などを音声で教えた。車椅子利用者には、スロープや障害者用トイレの位置などを画像で伝えた。アンケートでは、システムが街中で整備されることについて、視覚障害者の92%、車椅子利用者の78%が「有効だ」と思う」と答えた。【荒川基延】

平成17年6月11日(土)
中日新聞(朝刊)31面

身障者自律移動万博会場で実験

プロジェクト参加者募集

車椅子や車椅子利用者の道案内を目的に、自律移動支援システムの実証実験を行います。実験は、6月から9月の計39日間、瀬戸会場内で行われ、計305人が体験した。会場全域に電波を発信する点字ブロックや太陽電池式の無線マーカー（発信器）などを設置し、現在の位置や周囲の道案内などを音声で伝える。車椅子利用者には、スロープや障害者用トイレの位置などを画像で伝えた。アンケートでは、システムが街中で整備されることについて、視覚障害者の92%、車椅子利用者の78%が「有効だ」と思う」と答えた。【荒川基延】

平成17年5月31日(火)
毎日新聞朝刊 26面

平成17年10月5日(水)
毎日新聞朝刊 22面

神戸本格実証実験開始式

■ 平成17年6月19日(日)

・開始式及びデモンストレーション

(神戸市役所1号館1Fロビー)

- 平成17年度に神戸市内において実施する自律移動支援プロジェクト神戸実証実験の「開始式」を開催
- あわせて、坂村委員長(東京大学大学院教授)による神戸実証実験の概要説明及び本プロジェクトが目指す姿をイメージしたデモンストレーションを実施

○ 概要

・開始式

挨拶: 佐藤技監、矢田神戸市長、坂村委員長

・坂村委員長による神戸実証実験の概要説明

・デモンストレーション(神戸市役所)

車椅子利用者・視覚障がい者の経路案内 / インテリジェント基準点による公物管理 / i-BOXからの災害情報提供デモなど



左から、松本近畿総合通信局長、竹中委員、大平兵庫県理事、大石顧問、矢田神戸市長、坂村委員長、佐藤技監、上野政策統括官、藤本近畿地方整備局長、谷口近畿運輸局長によるテープカット

神戸本格実証実験開始式

デモンストレーションの状況



床に設置したICタグにより、
バリアフリールートを案内

スロープを利用し...



無事、エレベーターホールへ



神戸本格実証実験開始式

デモンストレーションの状況



ICタグ付誘導用ブロックにより、
エレベーターホールまでの
経路を案内



障害物を避け、
無事、エレベーターホールへ

神戸本格実証実験開始式

デモンストレーションの状況



i-BOXからUCへの経路情報ダウンロードデモ



i-BOXからの災害情報提供デモ

ICタグで道案内

神戸市内に
4万個埋設 国交省が実証実験

視覚に
障害者朗報



位置確認のデモンストレーションをする視覚障害者。坂村委員長(右)が手にするのと同じ携帯端末をポケットに入れており、音声で道案内が流れる
＝神戸市役所ロビーで

視覚障害者や日本語がわからない外国人が街角に埋め込んだICタグを利用して位置確認や道案内などの情報にアクセスできる国土交通省の「自律移動支援プロジェクトの実証実験」が19日、神戸市で始まった。神戸がモデル地区となり、市内の公共施設や繁華街、観光地などの地中に4万個のタグが埋設されている。この規模の実験は世界で初めてという。

ICタグに専用の携帯端末を近づけると、店舗案内や目的地までのルートが表示される。英語や中国語など4カ国語を使用。視覚障害者には音声

で流れる。

この日は神戸市役所で、矢田立郎市長らが出席して開始式をした後、デモンストレーション。

視覚障害者がタグが設置された庁舎に近づくこと「神戸市役所南側玄関です。前方は自動ドアです」などの情報がポケットの携帯端末から流れた。

市民モニターを募集

し、今年度中に実験を重ね、06年度にはさらに別の地方でも導入する。

の坂村健委員長(東京大学大学院教授)は「インフラを作るには時間がかかるが、衛星を利用すれば、災害時の安全確認も可能になる」と話していた。

【武内彩】

青森 第2回ユビキタス・フェア2005

- 平成17年6月21日(火)、22(水)
- ・シンポジウム(ぱ・る・るプラザ青森)、展示(アウガ)



坂村委員長による基調講演「ユビキタスネットワーク社会がめざすもの」



パネルディスカッションの様子

左から、大石顧問、岡田東日本電信電話株式会社取締役、杉山企画集団ぷりずむ代表、三浦社団法人青森県情報サービス産業協会副会長



デモンストレーションの様子(アウガ会場)

青森 第2回ユビキタス・フェア2005

展示ブースの状況(平成17年6月21日、22日アウガ会場)



デモンストレーション会場の様子



視覚障がい者による
システム体験の様子



アウガ展示会場内の様子
ICチップ入場カードリーダー付きアクセ
スポイント(写真手前右側)



青森県展示ブースの様子

神戸 モニターによるコンテンツ確認調査

■ 平成17年7月8日(金)、7月13日(水)

作成した情報提供内容が適切であるか、視覚障がい者を対象に触知図によるヒアリングを実施



ヒアリングに用いた触知図(横断歩道)



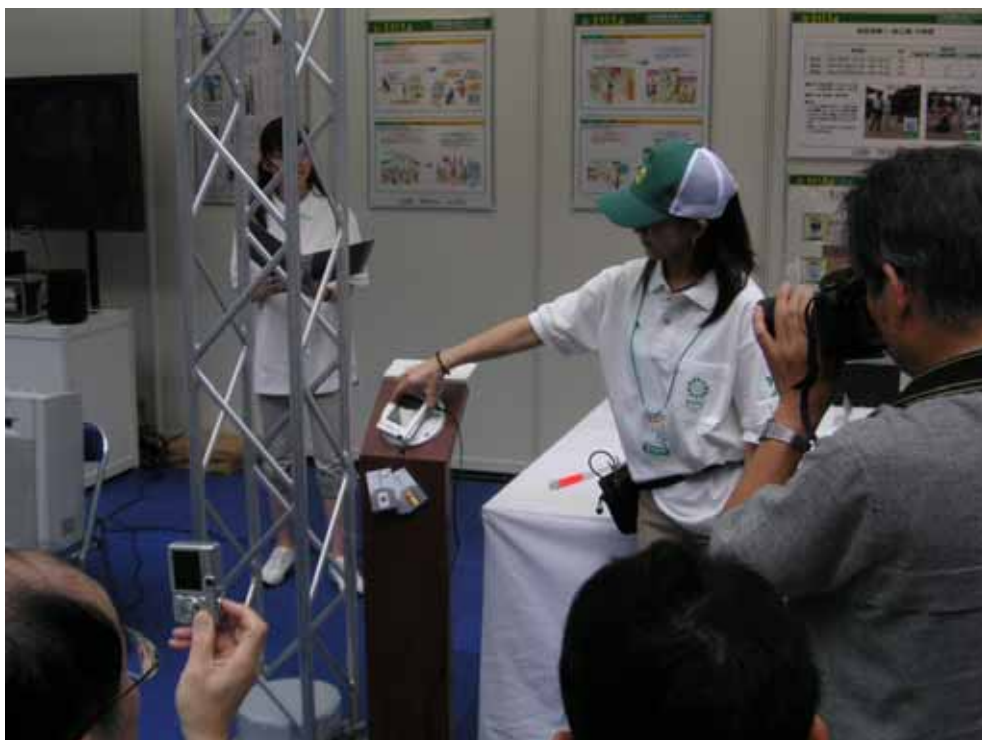
ヒアリングに用いた触知図(階段)



ヒアリングの様子

名古屋 ITS フェスティバル

- 平成17年7月12日(火)～14(木)
- ・名古屋・栄のオアシス21にて開催



デモンストレーションの様子

■ 平成17年8月18日(木)、19(金)

・神戸ファッションマート1Fアトリウム

・会場内にて体験ツアー、京町筋にてテクニカルツアーを開催

障がい者の社会的自立を目指しユニバーサル社会の創造を呼び掛ける「チャレンジド・ジャパン・フォーラム2005国際会議 in HYOGO/KOBE」が神戸六甲アイランドの神戸ファッションマートにおいて社会福祉法人プロップ・ステーション、兵庫県の主催により開催された。

北側国土交通大臣や尾辻厚生労働大臣、井戸兵庫県知事、矢田神戸市長、坂村委員長をはじめ、海外からの来賓を含む多数の出席者によるパネルディスカッション等が行われた。パネルディスカッションでは障がい者を納税者にできる日本を目指すことや、諸外国の取り組みの紹介、省庁や自治体の首長の意見交換が行われ、2日間の参加者は延べ約1,600人に上った。

また、近畿地方整備局、神戸市により自律移動支援プロジェクトのテクニカルツアーも併せて実施し、車いす利用者や視覚障がい者を含むのべ約50名の方々が体験した。

自律移動支援プロジェクト テクニカルツアー/体験ツアー

テクニカルツアー (近畿地方整備局実施)	体験ツアー (神戸市実施)
実施場所: 神戸市中央区旧居留地 (ランブミュージアム前)	実施場所: 神戸ファッションマートビル内 (CJF会場)
時間: 18日(木) 16:00出発 19日(金) 10:00出発 13:00出発	時間: 18日(木) 16:00 ~ 19日(金) 10:00 ~ 13:00 ~ 15:30 ~
ツアー内容: 【視覚障がい者用】 視覚障がい者誘導用ブロックからの経路情報の提供 【車いす利用者用】 歩道に敷設したICタグからのバリアフリー経路情報の提供 【健常者用】 インテリジェント基準点による位置情報の提供、案内表示板からの現在地情報の提供、店舗・施設情報の提供	ツアー内容: iBOXによるナビコンテンツダウンロード紹介 視覚障がい者誘導用ブロック、赤外線マーカーによる「ユビキタストイレ」、「ユニバーサル自動販売機」への自律移動支援体験



セッション：日本から世界へ、ユニバーサル社会創造の
ムーブメントを発信しよう！

左から、竹中委員、北側国土交通大臣、坂村委員長、
マイケル・ウインター氏

テクニカルツアー・体験ツアーの状況



坂村委員長よりiBOXの説明を受ける
佐藤事務次官、上野政策統括官、藤本整備局長ら



車いす利用者への情報提供について
説明を受ける坂本参議院議員



会場内での体験ツアー



携帯端末で操作可能なユビキタストイレ



ランブミュージアム前での車いすを使ったデモ



ランブミュージアム前での白杖を使ったデモ

震災教訓に安全社会を

十八日に神戸市東灘区の神戸ファッションマートで始まった「第十回チャレンジ・ジャパン・フォーラム2005国際会議 in H.Y.O.G.O. / K.O.B.E.」で、「すべての人が安全に暮らせる社会への提言―阪神・淡路大震災から学ぶ」をテーマにしたセッションが開かれた。国や自治体、研究機関の代表者ら四人のパネリストが、震災の教訓を将来の大規模な自然災害やテロ対策にどう生かすかについて話し合った。(一面参照)

チャレンジ・ジャパン・フォーラム

セッションでは、震災の教訓について、矢田立郎神戸市長が「住民が互いに助け合う仕組みの大切さが認識され、ボランティア組織の全国的な取り組みが進んだ」などと指摘。国土交通省の佐藤信秋事務次官は、震災後の災害対策で、被災地との情報共有や省庁間の連携が強化された事例を紹介した。

一方、河田恵昭・人と防災未来センター長は、全国で進む自治体合併に触れ、「自治体のずたがいが大きくなり、防災のネットワークが悪くなるだけでなく、財政難から合併前の自治体の一番低いレベルに抑えられてしまつ風潮がある」と懸念

人防センター長「合併で防災停滞」

同フォーラムには、約七百人が参加。講演やテーマごとのセッションのほか、情報技術(I.T.)を使って道路や観光地の情報を携帯端末を通じて入手できる「自律移動支援システム」の体験ツアーもあった。

(石崎勝伸)



会場で「自律移動支援システム」を体験する参加者＝神戸ファッションマート

チャレンジ・フォーラム閉幕

ユニバーサル社会向け宣言

「自らの手でひらく未来」

「ユニバーサル社会をつくっていく」と宣言する参加者＝神戸市東灘区、神戸ファッションマート



神戸市東灘区で開かれていた「第十回チャレンジ・ジャパン・フォーラム2005国際会議」は十九日、二日間にわたるセッションなどを終るセッションなどを経て、「すべての人が持つ力を発揮するユニバーサル社会を自らの手でつくろう」とする大会宣言を採択し、閉幕した。

同フォーラムは、ユニバーサル社会をテーマに、兵庫県、神戸市などでつくる実行委と社会福祉法人フロップ・ステーションが主催、計千

木村良樹和歌山県知

六百人が参加した。「ユニバーサル社会と地方分権」をテーマにした最後のセッションでは、全国の首長六人が持論を述べ、ユニバーサル社会のとりえ方に幅があることがあらためて示された。

東京都三鷹市の清原慶子市長は「たれちが誇りを誇る社会がユニバーサル社会。障害者の就労支援や市政への市民の参加を進めている」と発言。

採択された大会宣言には「障害者の多様な働き方を創出する企業やNPOを支援する」など、計四項目の努力目標が盛り込まれた。

事は一小泉構造改革で弱肉強食の社会になつて

いる。地方も切り捨てられそうだ。それを止めるのがユニバーサル社会」と訴えた。

また、矢田立郎神戸市長は「震災後、交え合いが神戸のあちこちに根付いた。それを広げ、人権が守られる社会をつくらなければならない」と述べた。

神戸 一般モニターによる実証実験

- 平成17年8月24日(水) ~
- ・ 第1期: 8月24日(水) ~ 9月22日(木)
- ・ 第2期: 11月14日(月) ~ 12月9日(金)

第1期モニター調査の概要

実施場所:

道路エリア(水曜日)

「フラワーロード(神戸市役所前) ~ 京町筋(ランブミュージアム)」

港湾エリア(木曜日)「かもめりあ」

内 容:

システムを体験して頂き、コンテンツ内容や機器の利便性に対して意見を伺った

参加者:

視覚障がい者 のべ23名



神戸 一般モニターによる実証実験

第1期モニター調査の状況

モニター調査体験者からの主なコメント

- 点字ブロックがどの方向へ伸びているか案内があるので探す必要がなく便利
- システムを使用することでこれまでよりも行動範囲が拡大すると思う
- 音声案内の話すスピードを調節できるようにして欲しい
- 白杖や携帯端末が重いため、小型化、軽量化して欲しい



体験後のヒアリング調査

実空間でのシステム体験

点字 最前線を行く

いつでも、どこでも、だれでも
「ユビキタス」は、国土交通省が主導する産官学共同の事業として昨年度から始まった。時や場所を問わずインターネットなどの情報ネットワークに接続できる「ユビキタス」の技術を利用して場所情報を提供するシステムで、「いつでも、どこでも、だれでも」移動経路や目的地、交通手段などの情報を入手できる環境づくりを目指している。

「ユビキタス」は「いたるところにある(偏在する)」という意味のラテン語に由来する言葉で、今回のシステムでも道路や建物、公園など、街中のさまざまな場所にICタグや、無線でデータを一定範囲に送る通信機器を取り付けられるのが特徴だ。ICタグ

神戸市で実験実験が進められている「自律移動支援プロジェクト」。音声で位置情報や誘導案内も提供される次世代のシステムとして早くから注目されているが、そのモニター体験会が12月まで行われる。先月24日から始まった第1期、視覚障害者対象のモニター実験の様子を見てきた。

自律移動支援プロジェクト



街路でのモニター実験

などにはそれぞれ、固有の位置コードが与えられ、専用の端末がそれを読み取り、ネットワークに接続することで、その場所の情報が提供されるという仕組み。市街地の場所にあるICタグが広がれば、視覚障害者が位置情報を入手する有力な手段になる。

8月24日から神戸市の中心街・三宮で始まったモニター実験は、神戸市役所周辺の道路エリアと、神戸港周辺の道路旅客ターミナルの2カ所で行われた。いずれもICタグの埋め込まれた点字ブロックの上を専用の白杖で歩き、杖先がICタグと接触すると、音声で聞こえるシステムの体験で、音声普及、寄附金から外出する案内の内容や表現方法、音が少なくないという。仮に

点字ブロックにICタグ

「歩行に自信が持てる」
「ユビキタス」技術を利用

「歩行に自信が持てる」
「ユビキタス」技術を利用

「ユビキタス」技術を利用

「歩行に自信が持てる」
「ユビキタス」技術を利用



施設内での設備案内

「歩行に自信が持てる」
「ユビキタス」技術を利用

「歩行に自信が持てる」
「ユビキタス」技術を利用

平成17年8月24日(水)
21:30 ~
サンテレビ(SUN-TV)
ニュースEyeランド



携帯端末
横断歩道です 距離は10メートルです



神戸市中央区

東京ユビキタス計画・上野まちナビ実験オープニングセレモニー

■ 平成17年10月13日(水)

・オープニングセレモニーとデモンストレーション(上野動物園内)



石原都知事による挨拶



坂村委員長によるシステムの説明



左から、二木上野観光連盟会長、吉住台東区長、江崎国土交通副大臣、石原都知事、川島都議会議員、坂村委員長によるくす玉開披

デモンストレーションの状況

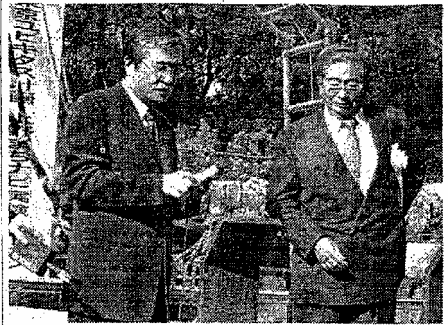


アジアゾウ舎前でのデモンストレーションの様子

平成17年10月14日(金)
産経新聞(朝刊)27面

オープニングセレモニーで坂村
健教授(左)から説明を受ける
石原慎太郎知事

—台東区の上野公園



戸外で自由に情報入手

「まちナビ」実験

上野でスタート

ICタグや専用端末を
使って、戸外でも簡単に
情報にアクセスできるよ
うにする実証実験が十三
日、台東区の上野動物園
周辺で始まった。

「まちナビ」実験は同

引き出せ、例えば、象舎

の前のICタグに端末を
近づければ、象の説明や
鳴き声を聞くこともでき
る。ICタグには専用の
番号だけが入力されてお
り、情報はサーバーに蓄
えられているため、情報
の交換はサーバー内の情
報を書き換えるだけで対
応できる。

都の実証実験実行委員
長の坂村健東大教授は
「将来はカーナビに代わ
る人間のためのナビゲー

ションシステムになる。
街中にICタグなどを設
置して、社会インフラと
なるように、実験を通じ
てセキュリティの高い
システムを構築してい
く」としている。

オープニングセレモニ
ーに出席した石原慎太郎
知事は「実験をきっかけ
に、IT分野の可能性が
開発され、世界に知られ
る端緒になることを祈念
する」とあいさつした。

在地の位置情報を示す個
体識別番号を専用端末で
読み取り、サーバーから
無線で観光情報や現在地
の情報などを呼び出すシ
ステム。動物園のゾウ舎
前で、この端末を使うと、
映像と音声による解説が
流れ、ゾウの特徴や飼な
どの文字情報、鳴き声な
どの音声情報を呼び出せ
る。日本語、英語、中国
語、韓国語に対応。

【大槻英二

平成17年10月14日(金)
毎日新聞(朝刊)26面

ICタグ使い 観光情報提供

上野で実験始まる

ICタグから位置情報
を読み取り、携帯端末に
観光情報と呼び出す「東
京ユビキタス計画・上野
まちナビ実験」のオープ
ニングセレモニーが13
日、台東区の上野動物園
で開かれた。

ユビキタスとは「どこ
にでもある」という意味。

「まちナビ」は、上野公



ICタグ(右下)に携帯端末をかざすと、画面
に観光情報が表示される—上野動物園で

園と上野動物園内の数千
カ所に設置したICタグ
や無線マーカーから、現

で、日本の存在感が世界

太郎知事は「新しい技術
を活用した観光ガイドが
上野で実験されるわけ

東京ユビキタス計画・上野まちナビ実験

■ 平成17年10月13日(水)～11月30日(水)



外国人観光客への機器説明の様子



外国人観光客によるシステム体験の様子



小学生によるシステム体験の様子

東京ユビキタス計画・上野まちナビ実験

- 平成17年10月13日(水)～11月30日(水)
- ・ユビキタス技術展示・秋葉原
- ・秋葉原ダイビル2階(学びと創造の場)にて開催



展示の様子

- 平成17年11月10日(木)13:30～16:15
- ・シンポジウム 「まち」とユビキタス
- ・東京国立博物館 平成館大講堂にて開催



左より、坂村委員長、青山フリーアナウンサー、大石顧問、岡本教授、月尾顧問によるパネルディスカッション

神戸 一般モニターによる実証実験

第2期モニター調査の概要

- 第2期モニター調査では対象者を広げてモニターを募集し、実際にシステムを体験して頂き、情報提供内容の妥当性やシステムの利便性について検証する

日 時:

平成17年11月14日(月)～12月9日(金)

午前10:00～12:00、午後14:00～16:00

実施場所:

道路エリア

「さんちか、フラワーロード、旧居留地、三宮センター街、元町商店街」

港湾エリア

「かもめりあ、メリケンパーク」

内 容:

音声による経路案内

バリアフリールートの経路案内

多言語による店舗情報、観光情報の提供

参加者: 視覚障がい者、車いす使用者、外国人、一般希望者

第2期モニター調査エリア図



神戸 一般モニターによる実証実験

第2期モニター調査の状況



視覚障がい者モニターの様子



視覚障がい者モニターの様子



視覚障がい者モニターの様子



一般希望者のモニターの様子

ト ロ ン プ ロ ジ ェ ク ト シ ン ボ ジ ウ ム
TRONSHOW2006

※他にも多くの講演がありますので、詳細は<http://www.tron.org/>をご覧ください。

●TEPS の開催日は 12 月 10 日ですので、お間違いないようご注意ください。

www.tron.org

对于2008年的数据，以博时基金公司的数据为例，其1-6月基金资产净值的平均增幅为1.2%，而同期沪深300指数的平均增幅为-1.2%。